

令和8年度 第1回 平塚市博物館協議会会議録

■ 開催日時 令和8年8月18日（火） 午前10時～12時

■ 開催場所 平塚市博物館 科学教室

■ 会議出席者（敬称略）

会 長 小倉 俊宏

副会長 金子 淳

委 員 大田 幹司、沢井 哲章、杉之原 明子、広谷 浩子

事務局 石川社会教育部長、浜野博物館長、川端館長代理（学芸担当長）、鳥栖主管（管理担当長）、濱田主管（管理担当）、塚田主査（学芸担当）

■ 傍聴者 0名

■ 会議の概要

1 開 会 ・博物館協議会委員について

・会長、副会長の選任

2 議 事

（1） 報告事項等について

・ 令和7年度の博物館活動状況について

・ 令和7年度の刊行物販売実績について

・ 開館50周年記念特別展

「ひらはく50年 市民と歩む地域博物館」開催報告について

・ 博物館こどもフェスタ2026について

（2） 令和8年度の事業計画について

（3） その他

・ 事務連絡

3 閉 会

■ 議事及び質疑

議事（1）報告事項等について

◆令和7年度の博物館活動状況について事務局から説明資料により説明。

委 員 天文の外部依頼事業が非常に多いのはニーズがあるということなのか。

事務局 ニーズということもあるが、公民館との連携事業も多く、平塚市はご存知の通り公民館が26館あり、ブロックごとや単館での依頼があるので、必然的に多くなっているところがある。

委 員 以前も伝えたかもしれないが、数字の評価は大変難しく、数字に現れない部分の数字はどう工夫をして出しているか聞きたい。例えば外部依頼で講演の形で話をする集まった人数をカウントしていると思うが、同じような依頼で人数がカウントできないような、例えば新聞

の取材やテレビなどのメディアに出た場合。これも効果としては非常に大きいと思う。新聞に載れば読者が何万人、テレビに出ればもっとというように。人数でカウントできない面はあると思うが、社会に対する波及効果としては非常に大きい。数値化できるところできないところはあるが、そういうメディア、今は新聞やテレビをオールドメディアと呼んだりもするが、それでもある年齢層にとっては非常に信頼の高いメディアでもあり、数値にはカウントできないが、例えば依頼があつて取材を受けた回数や何とかという番組に出た回数も、この外部依頼事業の中に入るのではないか。それらも含めると、もっと数字に表れないような効果や影響も見えてくるかもしれない。なかなかこれを表の中に入れるのは難しいかもしれないが、広がりがあることが分かってもらえるかと思い、尋ねた。

事務局 メディア取材や博物館の資料提供などは、データとしては持っている。年報ではこの辺を詳しく記載はしている。ただ、数が多く、今回の資料からは省かせていただいた。メディアの取材などは、年間 50～60 件。資料提供は 100 件ぐらい。毎年、執筆なり資料の提供や写真の提供がある。

委 員 どういう媒体が多いのか。

事務局 新聞も多いが、テレビ局に映像や写真を提供することも多い。特に天文分野で、流れ星、火球の観測の映像やコメントなどは、比較的多いと思う。

委 員 外部依頼事業に「視察」とあるがどういったところから来ているのか。また、外部依頼事業に含まれるか分からないが、企業と連携しているようなことはあるのか。

事務局 視察は多くはないが確認し、改めてお伝えさせてほしい。企業との連携は、個別の企業や団体と協業という協力関係はあまりない。特別展で時々、企業と協力することはあるが、地域の団体との共同研究や共同発表が多い。昨年の例では、春の特別展『近代ひらつかの女性たち』の展示で、地域の歴史研究団体などの研究団体と協力しつつ展示や図録の校正・執筆、講演会で協力いただき、展示制作をした。

委 員 博物館の実習生受け入れ人数について外部依頼にはないようだが、館としての事業ということなのか。学芸員の卵である実習生は、何人ぐらいでどんなことをしているのか。

事務局 学芸員資格取得のための学芸員実習ということでよいか。例年 9 月に実習を行っているが、前年の 3 月に各大学に案内を送り、募集している。基本的に各大学 1 名で、7 月の下旬にガイダンスを行い、9 月の 1～2 週目に実習をしている。現在は受け入れ人数の上限を 12 人とし、受け入れている。実習自体は各分野の資料整理、資料取り扱い実習から始まり、最終的には 12 人の実習生がアイデアを出し合って展示を作り上げるところまでが実習である。今年も 9 月 2 日から始まる予定だ。

委 員 実習生の展示はどのくらいの期間、見れるのか。

事務局 最終的には片付けまでが実習で、今年は 9 月 29 日まで展示を予定している。

委 員 昨年の実習生の展示は 20～30 年程前のおもちゃの展示で、こういうところに興味をもつのは

面白いと思った。博物館もいろんなところで、実習生の関心に当てはまるような資料を持っていると改めて思った。今年もどんな実習生の展示があるか楽しみにしている。

◆令和7年度の刊行物販売実績について事務局から説明資料により説明。

委員 デッドストックになってしまうようなものも、割引販売したことで手に取ってもらいやすくなったり、在庫が捌ける要因になったりということで、すごくよいと思う。これに関連して質問だが、東京の方では『多摩郷土史フェア』を毎年やっている。東京23区外、多摩地域の各自治体や博物館で出している郷土史などを集めて一斉に販売するという郷土史フェアを立川市の広い会場で行い、販売している。郷土史好きの年配の方々が大量買いし、非常に売れるので、自治体や博物館、郷土資料館にとっては稼ぎ時だが、神奈川県にはそういう取り組みはあるのか。その自治体に行かないと購入できないものが一斉に集まって購入できる場は非常に重宝され有効に機能しているので、そういう場があればいいと思う。また、以前申し上げた時に著作権の問題が、という返事をいただいたが、完売したものはPDFで無料ダウンロードできるようにしてはいかがかと思う。例えば著作権に関係なさそうなもの、既に完売のものは可能ならばデータ化して無料公開できないか。値下げが1段階目の広く届けるための施策とすれば、2段階目として、もう手に入らないようなものは情報公開できたらよいと思う。去年か一昨年ぐらいにお伝えしたが、検討されたかお聞きしたい。

事務局 多摩の取り組みは素晴らしいが、神奈川県でそうしたフェアの開催は今のところ聞いたことはない。博物館の外では販売をしていない。どの程度、外部での販売が可能かは今後検討していきたいと思っている。

PDFでの無料公開、アーカイブの公開は懸案事項と捉えている。非常に人気の高いものは既に手元に残ってない状態になっており、人気のものは2〜3年で売り切れてしまう図録もある。図書館での貸出、博物館で持ってるもののコピーを閲覧いただくご案内しか今はできていないが、過去の図録や刊行物を今後いかに多くの方に見ていただけるようにするのは、検討しなければいけない。ひとつは著作権の問題だが、紙の図録への使用は許可いただいているが、それをネット上で公開するか否かは、再度申請になる。もう一つは、個人情報的な問題で、過去は執筆者の名前や住所も入っていたりして、部分的に見えないようにするなど公開するための方法は様々かと思う。この二つのうちの取り組みやすいものについては公開に向けて進めなければと考えている。例えば、年報は庁内の印刷物でしか発行していないが、最近では他の博物館、美術館もPDFで出しているところが非常に増えて両方併用しているものもある。うちの館も併用を考えたが、紙媒体で出してる分にはよいがネット上に上げるにはクリアしなければならないこともあり、少し慎重に考えているところだ。今後問題を解決できれば来年度以降、年報はデータでの公開ということも妥当かと思っている。

PDF化に関しては、内部資料的な扱いとして古いものから順次、PDFを作っていくと

ころだが、公開前提の精査はできていない。ここ数年の特別展図録に関しては、基本的に他市他館なり、外部から借用する資料に関しては、Web 公開の申請ができるものについては、対応しているところだが、その扱い含め未だ内部のコンセンサスが取りきれないところがあり、全てを公開できる状態には未だ至っていない感じだ。ただ、社会的な要請などもあるので、公開に向けての作業は進めている。

委員 一つ目の質問、外部での販売をしていないのかという質問だが、博物館へ来館して展示に関連のものを買って帰るという意味では、ここでしか購入できないということが一方である。東京の方での例だが、書店で委託販売をしている。特にその場所に関係ない市史のようなものは書店に、神奈川だと有隣堂か、東京だと立川市にオリオン書房があり、地域のことを熱心にあつかい、理解が得やすい。委託販売のようなことが可能なら購入の機会が増え、よいのではないか。

事務局 神奈川で、例えば有隣堂のようなところで市史の委託販売を実践している自治体をご存知なら教えてほしい。

委員 東京だと普通に書店で販売している。そういう例は多いと思うが神奈川の事情はわからない。

委員 茅ヶ崎市発行、茅ヶ崎市史編集委員編集の『コロネット作戦』（茅ヶ崎などを上陸地点とした太平洋戦争末期に米軍の計画した日本本土上陸計画）という本が、茅ヶ崎の駅ビルの有隣堂に置いてあったのを見たことがある。

事務局 茅ヶ崎市に確認してみたいと思う。

委員 生命の星・地球博物館では、研究報告は少し前に全て PDF 化して、ネットに載せる形にしている。

委員 著作権の問題は取得するのが大変で、実行が遅くなることがあると思う。マーケティング的発想になるが、一部人気があるものを Web ページ用にアレンジして「続きはひらはくへ」や「続きはこの冊子を取りに行きましょう」のような形にする。一部だけ公開するという小さなアクションにすると、始めやすくなる気がする。

委員 『セミのぬけがら調べ』が 200 円で販売していることを、子どもは知らないと思う。夏休みの自由研究にしようとする子がいると思うが、この情報が子どもに届いていないというのは残念に思うと同時に、平塚市民にも情報が広まるとよいと思う。書店に行かない子どもが多いが、Web 上の情報があると有効かもしれない。

事務局 著作権や個人情報について全面的に PDF で公開というのが難しそうなものであっても問題のない部分だけでも公開していく一部公開の方法は効果があると思うので、柔軟に対応していきたいと考えている。

◆開館 50 周年記念特別展「ひらはく 50 年 市民と歩む地域博物館」開催報告について事務局から説明資料により説明。

- 委員 展示解説ボランティアをしているが、今回は開館当時の思い出を尋ねて来館する方、他地域の博物館の学芸員の方など、通常の展示と異なる来館者であると感じた。また、博物館の建直しはいつになるのか、休憩する椅子が欲しい等の声もあった。博物館の歴史を紹介するところに裏方である学芸員の顔写真を、5 年スパンくらいで載せられるとよいと思う。また、展示内容を「調べる、守る、伝える」という切り口で見せたのは分かりやすくよかった。
- 委員 資料にある担当者評価のところで「内輪で盛り上がるだけの展示内容になってしまう懸念があった」という指摘は重要だ。博物館学的には「自己言及的な展示」と言い、閉鎖的な中でやっていることを伝えるだけになってしまうことの一方で、博物館は公共的な存在でその活動はこれだけ社会的な意味があるのだということを伝える意味では重要で、その二面性のバランスを取るのが難しい。平塚市博物館の展示がそのバランスをクリアしていたのは、これまでの蓄積で地域に開かれていたからできたことで、すごくよい展示だったと思う。
- アンケートの結果は、数字に表せる量的評価にするか質的評価にするかという問題がある。博物館の展示は必ずしも数字で表せないところがあるが、質的評価の方法としてフォーカスグループインタビューをやっていくとよいのではないかと思う。ある集団を設定してより深く聞いていくと、今後の博物館の方向性に重要な視座が得られたりできるのではと報告を聞いて思った。また、記念講演会のアンケートの自由記述を AI を利用して傾向を読み取らせるとよい。
- 委員 アンケートには「市民との距離、地域社会とのつながりを維持してほしい」「全国の博物館関係者が注目している」「市民調査団体会員の高齢化に伴う次世代の循環的な育成をその都度検討し、永劫に残る活動になるよう期待している」と期待度の大きさがある。応援している。

◆博物館こどもフェスタ 2026 について事務局から説明資料により説明。

- 委員 高齢者ばかりの平塚市博物館の展示解説ボランティアをしているから思うのかもしれないが、80%が小学 3 年生以下で、これ以上の来客を受け入れるのは大変だという気がした。
- 委員 アンケートにある「当日行ってみた」「事前申し込み制があると思った」という声から、宣伝などはどうしているのか。
- 事務局 アンケートでも認知媒体として多い平塚市の広報紙で枠を取って、紹介する告知をしている。ミニコミ誌への掲載、博物館のホームページでも詳しい案内をしている。博物館日記には、昨年度の実施内容等が写真付きで出ているので、調べる方法としてはいろいろあると思う。可能な限り手は尽くした、と思っている。
- 委員 一つ一つのイベントの時間は長くないようだが。
- 事務局 コロナ禍には、ほぼ事前申し込み制だったが、明けてからは自由参加行事を増やしている。材

料などが必要なものに関してだけ、事前申し込みの形になっている。

事務局 PR に関して言うと、25,26 日の合計で 1,348 人という数字。1 日の入館者数 1,000 人を超える日は年間でこの日しかないので、かなり盛況かと考える。それに比べ、25 日は 328 人で通常の特別展開催の週末と変わらない人数で、館内を見て回ったが賑やかさが足りず寂しさを感じた。要因はいろいろあるが、イベントの内容が 2 日間とも半分は重なっている。単独でやっているイベントの内容にどれだけ惹きつける魅力があるか、が要因として大きいのではないかと感じている。

議事（2）令和 8 年度事業計画について事務局から説明資料により説明。

委員 考古学分野の秋期特別展『名品たちの里帰り』が企画されているが、東京国立博物館（以下、東博）の借用は、季節的な制約や条件などはクリアされているのか。

事務局 東博の中にある文化財活用センターと事業協賛し、輸送費や広告費など一部を補助していただき資料借用することになっている。条件としては、展示室、展示ケースの環境測定などが事前に必要だが、全てクリアしている。今回、東博からは、今は消滅した真土大塚山古墳から出土した三角縁神獣鏡や万田貝塚から出土の土偶などを借用することになっている。

議事（3）その他

◆事務連絡等

事務局 本日いただいた様々なご意見は、博物館の運営で今後も活かしていきたい。今年の 5 月 1 日に開館 50 周年の節目の年を迎え、記念式典の開催や記念特別展、プラネタリウムのリバイバル公演、新たな試みとして分野ごとのクリアファイルや一筆箋の販売など、今年度は一年間を通して 50 周年をお祝いしていく。開館 50 周年記念特別展や浜野館長、浜田教授の講演会。アンケートでいただいた多くのご意見には、お褒めや激励の言葉など、博物館職員にとって大変励みになる内容もあった。地域博物館としての使命を再確認し、さらに 100 周年に向けて多くの方々とともに、知の交流拠点としての役割を果たしていきたいので、今後ともご意見等をお願いしたい。

●閉会後に、博物館 1 階特別展示室で開催中の開館 50 周年記念夏期特別展「コツコツ 博物館にあるいろんな骨のこと」について、担当学芸員が解説をした。